

戦争末期に上伊那地方に疎開していた 陸軍登戸研究所とは

第一次世界大戦に入って戦争形態が「国家総力戦」となります。その中で秘密戦強化のために旧日本陸軍が開設したのが登戸研究所でした。

登戸研究所は、秘密戦兵器・資材を研究・開発する組織でした。正式名称は第九陸軍技術研究所でしたが、研究・開発内容を決して他に知られてはいけなかったために、「登戸研究所」と秘匿名でよばれていました。

秘密戦とは、防諜(スパイ防止)、諜報(スパイ活動)、謀略(破壊・攪乱活動・暗殺)、宣伝(人心の誘導)の4つの要素から成り立っているといわれています。登戸研究所はそれらの秘密戦のための研究機関として設けられ、アジア太平洋戦争において秘密戦の中核を担う組織として、軍から重要視された機関でした。

登戸研究所が生物化学兵器(毒薬・細菌)の研究開発の過程で731部隊などとともに人体実験を行った謀略機関としても知られています。

その登戸研究所が戦争末期に上伊那地方に疎開していました。

3. 陸軍登戸研究所の研究内容

総務科・・・研究・運営に関する総務全般

第1科・・・物理関係全般

- ・風船爆弾、殺人光線、宣伝用自動車、スパイ用無線通信機、宣伝用自動車など

第2科・・・化学関係全般

- ・秘密インキ、秘密カメラ、生物化学兵器(毒薬・細菌)、青酸ニトリール、特殊爆弾、時限信管など

第3科・・・経済謀略資材関係全般

- ・偽造紙幣、偽造書類、偽造パスポート、各種証明書の偽造

第4科・・・機材製造関係全般

- ・第1科・第2科で研究開発された機材の製造、陸軍中野学校校の指導

(木下健蔵氏作成パネルより)

終戦すぐに秘密機関である登戸研究所に関する資材は廃棄され、その実態は闇に包まれていました。しかし戦後40年以上たった1989年、赤穂高校の平和ゼミナールの生徒たちによるききとり調査によってその実態が明らかになりました。現在調査研究会は再調査をすすめながら、歴史の事実を後世に伝えていくための活動を行っています。

戦争末期の登戸研究所の 上伊那地方への疎開状況

敗戦が濃くなる戦争末期には大本営(日本軍を支配下におく天皇直属の統帥機関)の長野県松代への移転計画に伴い、川崎市(現明治大学生田校舎)にあった登戸研究所が上伊那地域などに疎開しました。

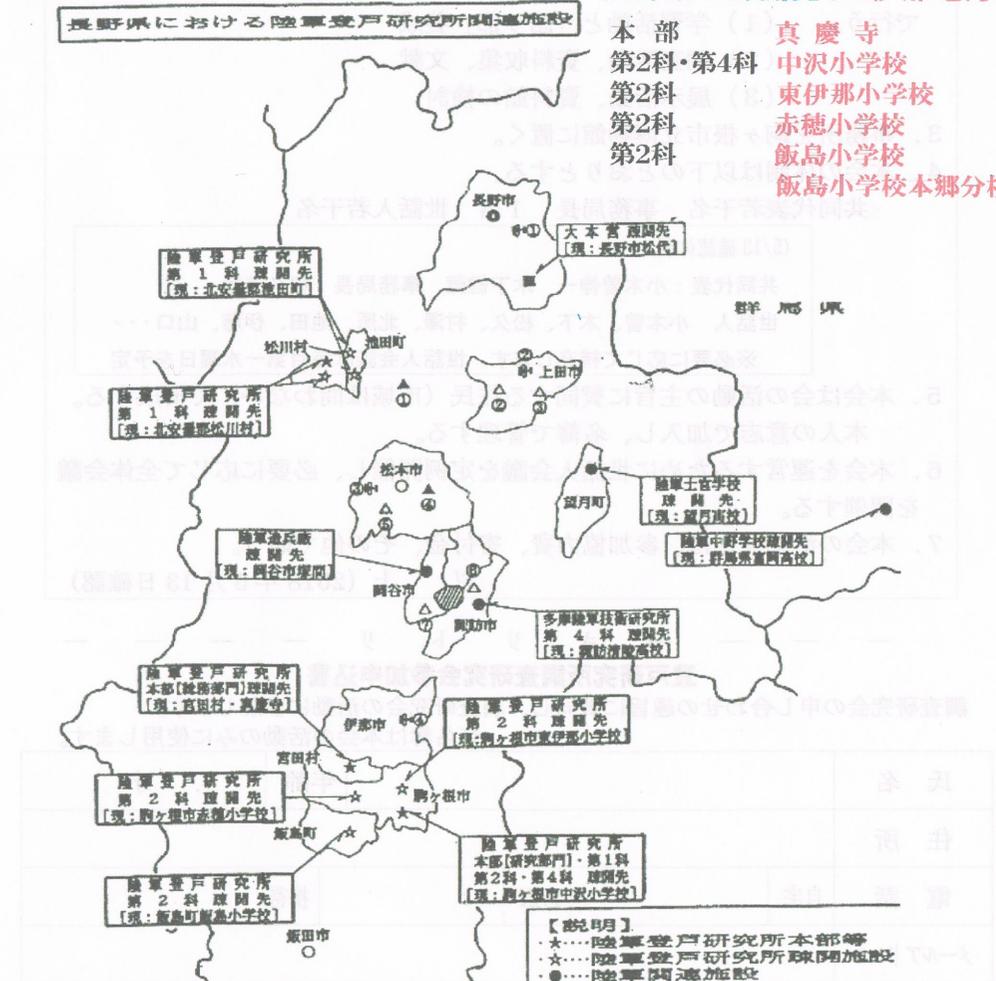
1945年に本土決戦にそなえ「決号作戦準備要綱」が策定され、6月には「義務兵役法」が公布され、国民すべてが戦闘要員とされました。

疎開地の学校や寺などがそのための施設となり、地域住民が全面的に協力せざるをえない状況となっていました。

登戸研究所の本部は宮田村の真慶寺に置かれ、主に第2科と第4科が上伊那地方に疎開しました。

長野県の疎開先(上伊那地方)

- 本部
- 第2科・第4科
- 第2科
- 第2科
- 第2科
- 真慶寺
- 中沢小学校
- 東伊那小学校
- 赤穂小学校
- 飯島小学校
- 飯島小学校本郷分校



調査研究会の活動

調査研究会は、2018年5月に発足してから、現地調査3回や学習会4回、市立博物館での展示、ききとり調査などにとりくんできました。

調査研究会の活動は以下の申し合わせにそって進められています。調査にかかわる会員と同時に賛助会員も募っています。またFbやTwitterでの情報発信も行っています。参加ご希望の方は、下記までご連絡ください。

(連絡先) 駒ヶ根市立博物館 83-1135 FAX83-1136

メール:m_yoshiki@cek.ne.jp 電話:090-8365-5034

登戸研究所調査研究会申し合わせ

1. 本会の名称は「登戸研究所調査研究会」とする。
 2. 登戸研究所の歴史を後世に伝えていくための調査研究活動を以下の内容で行う。
 - (1) 学習活動と「語り部」養成
 - (2) 調査活動、資料収集、文献
 - (3) 展示活動、資料館の検討
 3. 事務所を駒ヶ根市立博物館に置く。
 4. 本会の体制は以下のとおりとする。

共同代表若干名 事務局長 1名 世話人若干名

(5/13 確認体制)

共同代表：小木曾伸一 木下健蔵 事務局長：松久芳樹

世話人 小木曾、木下、松久、村澤、北原、池田、伊藤、山口・・・

※必要に応じて補充します。世話人会議は毎月第一水曜日を予定
 5. 本会は会の活動の主旨に賛同する住民（市域は問わない）で構成する。本人の意志で加入し、名簿で管理する。
 6. 本会を運営するために世話人会議を定例開催し、必要に応じて全体会議を開催する。
 7. 本会の活動費用は、参加協力費、寄付金、その他で賄う。
- 以 上 (2018年5月13日確認)

登戸研究所調査研究会参加申込書

調査研究会の申し合わせの趣旨に賛同し、調査研究会の活動に参加します。
※名簿は本会の活動のみに使用します。

氏名				年齢	才
住所					
電話	自宅	FAX	携帯		
	メールアドレス				

この地の歴史を後世に 資料を地域の財産に

登戸研究所調査研究会

「二度と戦争を起こしてはならない」とのみんなの願いを大切に

(連絡先) 駒ヶ根市立博物館 83-1135 FAX83-1136

あの戦争の末期、上伊那地域に元陸軍登戸研究所が疎開していたことをご存知でしょうか。地元のお寺や学校が登戸研究所の施設として徴用され、秘密兵器や毒物などの研究、開発が行われていました。調査研究会は、この歴史の事実と、「二度と戦争を起こしてはならない」との平和の願いを後世に伝えていくことを目的に発足しました。(登戸研究所の概要は2面、3面)

(調査研究会発足の趣旨)

公民館協議会の戦後70周年企画の平和講座で登戸研究所の歴史がとりあげられてきました。そのとりくみを受けて調査研究会は、小木曾伸一氏(元駒ヶ根市教育長)と木下健蔵氏(元県立高校教諭)の呼びかけで、懇談会や学習会を経て、2018年5月13日に発足しました。発足に向けた懇談会およびかけでは以下のように触れられています。

元陸軍登戸研究所の件につきましては、この間戦後70周年を節目とした各方面での取り組みなどで、地域の大事なテーマとしてとりあげられてきました。・・・

登戸研究所の問題は、赤穂高校の平和ゼミナールの生徒によるききとり調査をきっかけに、地域の歴史の大事な課題として市民的関心が広がっているところです。駒ヶ根市も公民館活動を中心に継続してとりあげられてきました。「二度と戦争を起こしてはならない」という市民的とりくみも行われています。

これらの中で、登戸研究所の歴史をきちんとまとめて子や孫に伝えていくことの重要性が提起されてきました。・・・

現在、中沢公民館で登戸研究所に関する資料が保管され展示されています。しかし歴史をまとめ後世に伝えていく上では、課題をかかえているのが現状です。・・・

戦争末期、陸軍登戸研究所が疎開していた

駒ヶ根市民俗資料館

～旧中沢小学校の校舎～ →

(駒ヶ根市の有形文化財)

